



# 佐仁っ子



今月のシンボルツリー「ゆんきゃぶりの木」

佐仁小学校キャッチフレーズ「蝶と太鼓と読書の佐仁小」 令和2年2月28日発行

※ この学校だよりは、『佐仁小学校ホームページ』より発信中です。どうぞご覧ください。

## 「佐仁の素晴らしさ」実感！

校長 花房 八重子

2月も多くの学校行事が行われました。

4日(火)には、来年の「佐仁っ子」の小勝陽斗さんの体験入学を実施しました。13日(木)にはウギパギ、21日(金)には黒糖づくりと音楽鑑賞、そして23日(日)には、「令和元年度危機的な状況にある言語・方言サミット」において、佐仁小学校の取組を発表する機会に恵まれました。それぞれの詳細につきましては後述しますが、「佐仁の素晴らしさ」を実感した1か月でした。

様々な活動に一生懸命取り組む子供たち。それを日々優しく温かく見守り、励ましてくださる保護者や地域の方々の御理解と御協力に感謝申し上げます。子供たちにとっても、一つ一つの活動が貴重な経験になりました。これらの蓄積が、今後、子供たちの心の糧になっていきます。

今まで継続した伝承活動によって、シマグチやシマ唄、八月踊りを大切にしようとする心情が、育つものと思われます。また、すばらしい音楽に触れたり、黒糖づくり等の活動を体験したりすることで、未知なるものへの挑戦や、技術の向上も期待できます。けがも無く、無事に実践できましたことに、心から深く感謝申し上げます。

今年度は、本校の活動が新聞やTV等のメディアに多く紹介され、校区の伝承文化を受け継いでいこうとする意欲も、子供たちの心中に次第に高まってきています。これからも校区の方々と一緒に、充実した伝承活動を展開していきたいと思えます。更なる御支援と御協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。心から「ありがたさまりょうた」



### 佐仁小の受賞記録

- 【奄美市美展 書道の部】
- 入選 1年 ○○○さん
- 入選 3年 ○○○さん
- 入選 5年 ○○○さん
- 入選 6年 ○○○さん
- 【MBC「私たちの作文」コンクール】
- 学校奨励賞
- 【奄美市PTA広報誌コンクール】
- 努力賞(11紙中4番目の賞です。)

### 今月の新聞掲載

- 2月24日(月)南海日日新聞8面
- 記事掲載:「まなび・福祉フェスにぎわう」
- 2月24日(月)南海日日新聞9面
- 記事掲載:「島の宝「方言」を次世代へ」
- 2月27日(木)奄美新聞3面
- 記事掲載:「伝統の黒糖、自分たちで」



### 3月の行事予定



- 3日(火) 家庭学習・生活リズム強調週間(～10日)
- 6日(金) 6年生を送る会、お別れ遠足
- 12日(木) 清掃強調週間(～23日)、笠利中学校卒業式
- 13日(金) ふれあい給食
- 14日(土) 土曜授業
- 19日(木) 卒業式予行練習
- 24日(火) 第72回卒業式(10:00開始)
- 25日(水) 修了式、大掃除
- 27日(金) 離任式、校区お別れ式
- 28日(土) PTA・校区合同職員送別会

※ コロナウイルス対応により変更がある場合は、その都度、校区放送でお知らせします。

### 今月のスマイルさん





## 学力向上を目指して

1月15日(水)と16日(木)に5年生を対象として行われた、鹿児島学習定着度調査の結果が出ました。全体的に見ると大変厳しい結果でした。具体的には、次のような課題が明らかになりました。

- (1) 全教科において、確実に身に付けるべき**基礎的・基本的な問題を解くことができていませんでした**。授業や家庭学習において、徹底した反復学習を継続的かつ日常的に重ねていく必要があります。
- (2) **算数科**においては、**求められている事柄に沿って、解き方を説明する力が身に付いていないことが分かりました**。また、他教科に比べて、**基礎的・基本的な問題を解く力が身に付いていないことが分かりました**。
- (3) **国語科**においては、**言葉の力(漢字力、ローマ字の読み書き、言葉のきまり)が身に付いていないことが分かりました**。

これらは、5年生に限らず、佐仁っ子全体の課題です。課題を解決し、子供たちの学力を高めるため、次のようなことに取り組みます。

### 【学校で行うこと】

- 授業中に、**自分の考えを伝え合う場面**を取り入れます。その際、ただ説明するだけでなく、相手に伝わるように**発表の仕方を工夫**させます。また、発表を聞く子どもたちにも、その説明で言いたいことが伝わったのかどうかを評価させます(**分かりにくい時には質問**をさせます)。
- 授業の終わりに、**練習問題を解く時間やその時間で学んだことを自分の言葉で説明させる時間**を位置付けます(分かったかどうか、できたかどうかを見届けます)。

### 【家庭で行ってほしいこと】

- **家庭学習**の取組に個人差が見られます。家庭学習は「当たり前」の習慣であり、「必ずすべきこと」です。これらを生徒自身自身が認識し、習慣として身に付くまで、**確実な見届け**をお願いします。
- 学力と**生活習慣**は密接にかかわっています。**帰宅後の過ごし方やテレビやゲームとの付き合い方**について、お子さんとよく話し合い、**ルールを決めたり、計画を立てさせたり**してください。



## 待っているよ、陽斗さん

2月4日(火)に来年度入学予定の〇〇〇〇さんが、体験入学にやってきました。その日のためにいろいろと準備していた1年生は、朝からそわそわした様子。給食前に〇〇さんがやってくると、とても嬉しそうに出迎えていました。緊張していたのか、交流給食ではお母さんのそばを離れなかった〇〇さんでしたが、昼休みや掃除の時間に佐仁っ子と触れ合うと、笑顔が見られるようになりました。5時間目は、1年生と福笑いを楽しんだり、1年生の読み聞かせを聞いたりしながらふれあいのひと時を満喫していました。体験入学を通したふれあいは、1年生にとっても良い刺激になったようで、4人の顔がいつもよりも頼もしく見えました。子供たちの中に「〇〇さんのお兄さん、お姉さんになるのだ」という自覚が芽生えたのでしょうか。

〇〇さん、佐仁小学校は、とてもいい学校です。10人のお兄さんとお姉さんが首を長くして待っています。安心して入学してきてくださいね。



【交流給食の様子】



【〇〇さんの体験入学(1年生との交流)の様子】



## 今年もたくさん収穫したよ～ウギパギ～

2月13日(木)にウギパギを実施しました。校区から学校応援団の〇〇〇〇さんをはじめ、〇〇さんと〇〇さん、PTAからは、〇〇さんの御協力をいただき、大きく育ったサトウキビを鎌で刈り取り、皮をはぎました。〇〇さんや〇〇さんが一振りで切り倒す手本を見た後に、5・6年生の子供たちを中心に刈り取る作業を体験しました。お手本を見る限り、簡単そうに思えましたが、やってみるとなかなか難しいものでした。2回3回と鎌を振り上げて何とか1本を切り倒すペースに「これは時間内に終わるかな」と不安になりましたが、さすがは高学年の子供たち。次第にコツをつかみ、切り倒すペースも上がってきました。皮をはぐ作業は、専用の道具もあり、着々と進むと思われました。しかし、背の高いサトウキビの皮は、道具を使っても時間がかかるものでした。小さな畑から収穫したサトウキビでも1時間ちょっとかかる作業。「この何十倍も広い畑で専用の道具もなかった時代は大変な作業だったろうな」と思うことでした。体験活動が終わった後、子供たちは、やり遂げた充実感に浸りつつ、「21日は黒糖作りだ」と楽しみを隠せない様子で、サトウキビを積んだ〇〇さんの軽トラックを見送っていました。

限られた時間内で作業を終えることができたのも、協力してくださった校区やPTAのみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。



【サトウキビの刈り取りと皮をはぐ作業の様子】



【収穫したサトウキビをバックに】

## できるだけ自分たちの方で～黒糖づくり～

2月21日(金)に子供たちが楽しみにしていた黒糖づくりを行いました。まずは、火を起こし、サトウキビの汁を煮詰めていきました。温まってくると、出てくるのは灰汁だけでなく薪から出てくる煙。「目が痛い」といいながら、根気強く灰汁を取り除きました。沸騰すると、勢いよく上がってくる煮汁に「どうするの」と慌てていましたが、ひしゃくで煮汁をすくって冷ませばよいことを教わると一安心。ふきこぼれるぎりぎりのタイミングを見極めたり、「ストップ！」と叫んだりしながら、楽しんでいました。最も気を遣ったのは、石灰の調合。「酸性のサトウキビ汁には、アルカリ性の石灰を入れます。石灰が少ないと、甘いけれども固まらない。入れすぎると、固まるけれども苦い。石灰の量で味が決まります。」安田重照さんの言葉にたじろいでいました。しかし、水で溶いた石灰を入れると、煮汁が緑色になる変化に興味津々。少量の石灰を入れては、湯飲みに煮汁をすくい、安田さんがくださった葉っぱの色と見比べていました。煮汁がどろどろになると、冷水に浸して、固まるかどうかのチェック。そして味見。固まった黒糖を一口ほおばると……。「ああ、甘い」「おいしい」と歓喜の声を上げていました。



黒糖作りがひと段落した後、鍋敷き用に校区の方々が行ってくださっていた縄結いにも挑戦しました。最初はいびつな形の縄を片手に「どうするの、難しい」「意味が分からない」と嘆いていましたが、コツをつかむと、目を輝かせながら「できました。見てください」と声を上げていました。

このような貴重な体験ができたのは、子供たちの活動を支えてくださった校区の方々や保護者の方々の御協力があったからです。御多用の中、本当にありがとうございました。



【煮汁を冷ます様子】



【石灰の量のチェック】



【焦がさないようにかき混ぜる様子】



【縄結いにチャレンジ】



## 7口の演奏に触れました～音楽鑑賞会～

2月21日(金)の午後からは、バイオリニストの土屋昭穂さんとピアニストの松元拓士さんをお招きし、音楽鑑賞会を行いました。まるで機械のように動く指先と奏でられる美しい音色に参加者一同うっとりしながら、至福のひと時を満喫しました。バイオリンを実際に触って音を出した〇〇〇〇さんと〇〇〇〇さんが、「音がなって嬉しかった」と口を揃えて喜ぶと、土屋さんは「初めて触って音を出せるのはすごいことだよ」と称賛。最後はアンコールにこたえて、佐仁小学校の校歌を演奏してくださいました。



【土屋さんと松本さんを囲んで撮影】

その道を究め、一線で活躍している方の実演と解説する言葉には、子供たちに夢を与える力強さがありました。子供たちにとっては、自分の将来について考える「キャリア教育」の一環にもなりました。



【バイオリン演奏にチャレンジ】



【「パプリカ」の演奏に合わせ、踊る子供たち】



【手づくりの黒糖をプレゼント】

## 佐仁のパワーが観客を魅了

2月23日(日)に行われた「まなび・福祉フェスタ」と「危機的な状況にある言語・方言サミット」は、まさに佐仁っ子とPTAの方々や佐仁校区の方々のパワーを奄美市に、そして全国に発信する機会となりました。

まず、午前中に行われた「まなび・福祉フェスタ」では、5年生の〇〇さんが、泥染め工場で働くおじいさんの姿から抱いた「泥染め師になって奄美の伝統の技を受け継ぎたい」という夢をシマグチで力強く発表しました。

午後から行われた「危機的な状況にある言語・方言サミット」のフィナー

レでは、佐仁小学校と校区の方々やシマグチやシマ唄、八月踊りの伝承活動について発表を行いました。その中で、6年生の〇〇さんが「佐仁のシマグチは難しいが、粘り強く教わって、いつか校区の方々やシマグチで語り合えるようになりたい」という目標をシマグチで発表し、会場の喝采を浴びました。また、佐仁っ子とPTAの方々や佐仁校区や郷友会の方々やシマグチやシマ唄、八月踊りでは、勇壮な踊りで観客を魅了しました。そして極めつけは、六調踊り。太鼓と三味線に合わせて踊り唄が始まると、会場から観客の方々や次々と登壇。会場の方々とも一体となってフィナーレにふさわしい盛り上がりを見せました。大会終了後に行われた懇親会では、「これまでの方言サミットで一番盛り上がった。素晴らしい文化に対する誇り」にあるのではないのでしょうか。佐仁小学校では、その文化を子供たちに学ばせる活動を今後一層充実させていきたいと思っております。

最後に、今回の発表に向け、〇〇さんと〇〇さんの作文をシマグチに翻訳し、指導してくださった安田重照さんや八月踊りの合同練習会を中心となって進めてくださった前田和郎さんをはじめ、御多用の中に、会場に駆けつけてくださった校区、郷友会、PTAのすべての皆さんに厚くお礼申し上げます。



【〇〇さんの夢の発表】



【西優斗さんの成果発表】



【勇壮な八月踊り】

## 今月のとじ込み文書

今月のとじ込み文書は、次の3通です。御確認ください。

- ① 新聞掲載記事紹介
- ② 卒業式案内
- ③ コロナウイルス感染防止に関する文書

